

## 歴認研活動記録

### 歴史認識問題研究会・役員名簿（令和3年9月現在）

- 会長：西岡 力（モラロジー道德教育財団教授・麗澤大学客員教授）  
 副会長：高橋史朗（麗澤大学大学院特任教授・モラロジー道德教育財団教授）  
 同：江崎道朗（評論家）  
 同：ジェイソン・モーガン（麗澤大学准教授）  
 事務局長：勝岡寛次（明星大学戦後教育史研究センター）  
 同次長：長谷亮介（歴史認識問題研究会研究員）  
 監査：島田洋一（福井県立大学教授）  
 顧問：伊藤 隆（東京大学名誉教授）  
 同：櫻井よしこ（ジャーナリスト）  
 同：田中英道（東北大学名誉教授）  
 同：渡辺利夫（拓殖大学学事顧問・前総長）

### 歴認研活動履歴（令和3年3月以降）

令和3年（2021）

- 3月11日 元朝日新聞記者の植村隆氏が西岡力本会会長を名誉棄損で訴えた一連の裁判で、最高裁が植村氏の上告を退け、西岡会長の勝訴が確定。
- 3月31日 西岡力編『朝鮮人戦時労働の実態』（シリーズ 旧朝鮮半島出身労働者問題を考える）を、一般財団法人産業遺産国民会議より刊行。  
 同書目次（執筆者）は以下の通り。
- 総論 朝鮮人強制連行プロパガンダ（西岡力）
  - 第一部 朝鮮人戦時労働の実態
    - I 統計から見た戦時労働の実態（西岡力）
    - II 朝鮮人戦時労働者の労働現場の実態（長谷亮介）
  - 第二部 戦後の展開（1）日本
    - III 朝鮮人・中国人「強制連行」運動史（勝岡寛次）
    - IV 日本での徴用工裁判と韓国大法院判決（和田衛）
  - 第三部 戦後の展開（2）韓国
    - V 日韓条約での外交解決、韓国政府の補償、韓国での裁判（西岡力）
    - VI 韓国大法院「徴用工」判決—韓国司法の歴史的汚点（岡島実）
- （巻末資料は略）
- 8月13日 「柳錫春元延世大学社会学科教授に対する起訴を憂慮する日韓米学者共同声明」をソウルで発表（日本語版は本誌 頁参照）
- 8月26日 西岡力著『日韓「歴史認識問題」の40年：誰が元凶か、どう解決するか』（草思社）刊行、この間の歴認研の研究成果を反映。

## 定期研究会開催記録（第66回～第71回）

回	日時	講師（肩書）	テーマ
66	3.3.19	西岡力（モラロジー研究所教授・麗澤大学客員教授）	韓国のアンチ反日運動とラムザイヤー慰安婦論文に対する最近の動向について
		長谷亮一（歴史認識問題研究会研究員）	朝鮮人戦時労働者の賃金問題に関する考察
67	3.4.23	ジェイソン・モーガン（麗澤大学准教授）	ラムザイヤー事件に見える歴史認識問題—米国学会の動向と政治的背景
		筒井正夫（滋賀大学名誉教授）	戦前期、紡績大企業の発展と企業城下町の形成—「女工哀史」的暗黒社会観を超えて
68	3.5.28	西岡力・長谷亮介・勝岡寛次	西岡力編『朝鮮人戦時労働の実態』—執筆者による解説
69	3.6.25	前川恵司（亜細亜大学アジア研究所特別研究員、元朝日新聞ソウル特派員）	朝日新聞慰安婦報道の内と外
		溝口郁夫（南京事件研究家）	南京事件「16枚の写真帳」を検証する—中国世界記憶遺産と朝日新聞のデタラメ
70	3.7.16	江崎道朗（評論家）	保守自由主義と対外情報機関—緒方竹虎を中心に
		西岡力（モラロジー道德教育財団道德科学研究センター教授・麗澤大学客員教授）	「従軍慰安婦」使用不可閣議決定の意義と河野談話への対処案
71	3.8.27	筒井正夫（滋賀大学名誉教授）	共産主義はなぜ大虐殺に至るのか、根本理論からの考察
		長谷亮介（歴史認識問題研究会研究員）	朝鮮半島から見た朝鮮人労働動員